

総合学習に河川・森づくりを入れて

活動している学校訪問

桂川・相模川流域協議会 熊澤 峻子

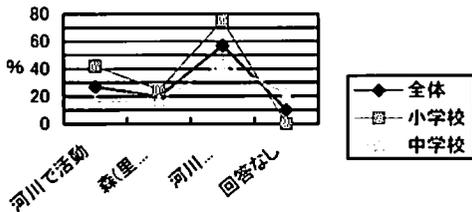
1 はじめに

総合学習が2002年に導入されて以降の活動内容を学校訪問して知りたいと思った。小・中学校50校ずつの100校を対象に、河川・森づくりの活動に限定して、同じ内容のアンケート調査に答えて貰った。この中から訪問を受け入れてくれる学校を選び、交渉の結果、小学校は3校にお願いする事が出来たが、中学は残念ながら受験を控えているために、学校訪問を遠慮する事にしてアンケート結果を纏めるだけにした。

2 アンケート調査

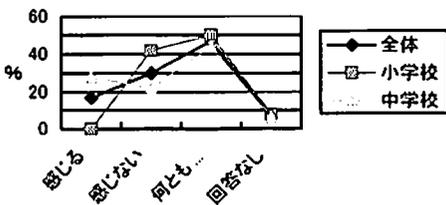
以下6項目のアンケート調査で、結果(回収率30%)を全体、小学校、中学校の傾向をグラフで表し、項目の具体的内容については小学校・中学校の多くの意見の中から1、3例を記載することにした。

■総合学習の活動内容について(複数可)



河川で活動：ホテル保護、川遊び、缶ビン拾い、水生生物調査
 森(里山)活動：学校林遊び、下草刈と植林、野鳥観察、清掃
 河川・森(里山)以外：国際理解、農業生産活動、和太鼓、地域歴史調べ、情報教育、リサイクル、新エネルギー、燃料電池

■「生徒の学力低下」について

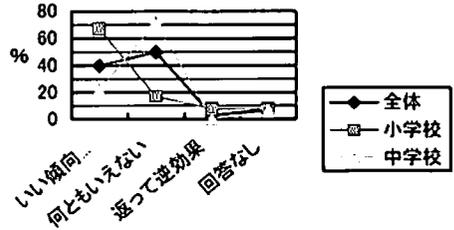


感じる：基礎・基本学習に充てる時間が少ない。
 感じない：総合学習は子供達に生きる力、学び方を身に付けさせます。学力の考え方を明確にする必要があるが授業時

間よりも大きな原因がある。

何ともいえない：世界的なOECD等の結果を見ると日本は上位にいる。総合学習、週5日制の導入で学力低下が起きたとは、言い切れない。

■「生徒の学習意欲」について

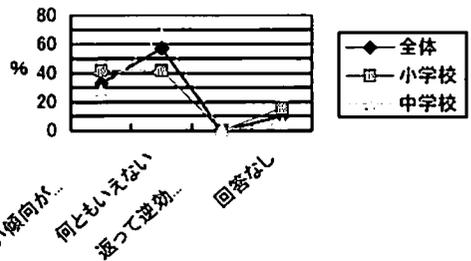


いい傾向が出てきた：教わるだけでなく、発展的な学習に進む傾向が見られてきた。表現力、発音力等伸びている。自己調べ学習ができてきた。

何ともいえない：メリット、デメリットがあるので、休日が増えた、減ったは学習意欲に大きく影響を与えているか、更に長期的な調査が必要である。

返って逆効果である：学習に対して不安を感じる保護者を増やしている気がする。

■「学校の生活態度」について



いい傾向が出てきた：縦割り活動の農業生産活動は「共に生きる」力を育てる。福祉について興味を持ち進路に福祉関係を選ぶ生徒が出てきた。

何ともいえない：教えるべきところは教える。指導すべきところは指導する。それは変わらない。以前から落ち着いた学校で、全般に授業、行事を真面目で意欲的に取り組んでいる生徒が多い。

■新しい総合学習が入って、先生方はどう思っているか。率直なご意見を頂きたい。

- *色々批判も出されているが総合学習は、小学生の子供達の成長にとって、有意義と思います。
- *力量のある教員とそうでない教員とに受け止め方が違う。企画力、対応力の差が顕著である。
- *基本的な考え方についてはよいが、施設や人、予算等に制限があり、実施するには困難が多い。

- * 今迄以上に手の掛かる学習活動である。また地域社会との連絡調整が必要なため、担当の配慮の有る無しが学校の信頼を左右する傾向にある。
- * 4年目に入り、教師側も定着してきて総合的な学習こそ基礎基本が大切と感じざるを得ない。
- * 趣旨は理解できるが、実践へと具体的に移していくのに苦勞している。
- いじめの問題、学級崩壊等が問題になっているが、新しい教育の導入で生徒に変化が出てきたか。
- * 移行期の難しさはあると思うが、少しずつ生徒も教師も新しい教育に馴染んできている。
- * いじめや学級崩壊は全てなくなると思わないが相手の立場の考えを大切にする傾向が見られる。
- * 心配事として考えると、今後意欲的に活動していく子供達と、そうでない子供達との両極端に分かれていくのではないかと思う。
- * 学校教育の改革は学校がついていけない程速いスピードで進んでいる。学校や教職員ばかりでなく、社会教育と共に子供の環境を考えないと子供達にとってよい教育ができるわけがないと感じている。文句の多い生徒が増えてきている。
- * 新しい教育の導入の理由と言うより、世の中の大人の生き様等が子供に反映している。30年前にもいじめがあったが、陰湿化してきている。
- * あまり感じません。学校経営は管理職のリーダーシップに大きく左右されると思う。

3 学校訪問

<その1> 甲府市立相川小学校訪問

武田の杜にある1.82haの学校林で5年生83名の「遊々の森における体験学習」のグループ活動を見学する。竹トンボをナイフで上手に削っていた子供達。竹琴でドレミを叩いていた音色が森に響いていた。木を輪切りにしていたクラフトグループのノコギリの腕前は中々なもの。秘密基地づくりの男子は竹の葉で壁と屋根を敷詰めた三日月型に展望台も付けた元気一杯の力作を、女子の協力秘密基地はそれに負けじと縄で確り松の木に結んでいた。礼儀正しい子供達の働く姿はとても素晴らしい。

しかった。

<その2> 相模原市立田名北小学校訪問

フロンティアスクール推進校の研究発表会「自然の姿に感動し生活に学ぶ環境教育～子供の遊びを深めるための情報活用能力の育成～」は情報教育でコンピュータを学びの道具として位置付け、「わいわいレコーダ（子供向けのソフト）」のデジカメ画像が実に鮮明であった。学校のホームページから発信させた6年生の相模川新聞づくりの授業風景で、好評の返信メールのグループ発表に加え、編集後記を作成する文字入力の話は見事であった。子供達がインターネットをここまで使いこなせるまでには、専門の指導員を投入し家庭まで協力を要請して研究を重ねて育て上げた先生方の努力を校長が淡々と語っていたのに感動する。

<その3> 山梨県北都留郡上野原町立島田小学校訪問

植林、桂川のゴミ清掃が終わって参加できなかったが、「島小どきどきわくわく学習発表会」の5年生の総合学習「お米研究クラブ」は、PCを使ってのお米の作り方、農業の問題、アイガモ農法、赤米・黒米・みどり米等の展示、平成14年度の米の作付面積の多い順等を家の人から聞いたり、インターネット等で調べて発表していた。初から白米にする「ミニもみすり機」、「ミニ電動精米機」の体験があり、子供達が作った赤米・黒米の試食やスカ入りケーキの試食もあって、全てが子供達主体の学習発表会であった。無駄をしない生活密着型の活動から「共に生きる」ことの大切さを学んだ1日であった。

4 今後への期待

指導要項にない総合的な学習を、中・高校生が受験を控えている中でチャレンジする事は大変困難であるが、体験学習と教科の基礎・基本を旨く進路とリンクさせた総合学習へ、学校は独自の教育プログラムを編み出し、生徒自ら将来の目標への足懸かりとなる改善を期待している。